［巻頭言］

「国際学研究」第 7 巻の発刊にあたって

――杉山直人教授のご退職を記念して――

国際学部長　丸　楠　恭　一

関西学院大学国際学部の開設とともに発刊された「国際学研究」も本号で第 7 巻を迎えた。

国際学部は、関西学院の創設者であるウォルター・ランバスの精神に通じて関西学院に託された「世界市民の育成」という使命の具現化として、「国際性の涵養」という教育・研究上の理念を達成すべく、国際事情に関する課題の理解と分析を目的とし、学生に高い外国語能力を習得させ、人文社会科学の学際的な観点から、日本や世界の諸事情を多角的に理解・分析できるようにすることを目指してきた。この教育上の成果が着実に達成されてきている現状を見るとき、私たちは本学部開設の基本的な考え方が現代という時代に確かに適合しているのだということを強く確信するに至っている。

そしてこのような教育上の成果は、「国際」を切り口としつつ縦の学問領域を超えて実践されている本学部教員の日々の研究活動及びその成果に支えられている。文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営、及び言語教育の諸領域・分野に所属する本学部教員は、その所属する領域に捉われることなく闊達かつ新奇性に富んだ質の高い個人研究・共同研究を展開し、学術の進歩、社会的貢献、学生の学びなどに寄与している。本号に掲載される諸分野の論文・研究ノート等はその一つの成果である。

学部開設 10 年を間近に控え、本学部教員の研究の今後のさらなる進展を通じ、本学部が広く社会に貢献する存在として発展していくことを期待して止まない。

なお、2017 年度においては、国際学部創設と同時にご就任され、ともに学部長を務められた伊藤正一教授と杉山直人教授が、年度末をもって定年退職を迎えられる。

このうち、伊藤正一教授においては、本通常号（『国際学研究　Vol.7　no.1』）以外に別冊として『国際学研究　Vol.7　no.2』伊藤正一教授退職記念号を刊行するため、本号では杉山直人教授のご経歴ご業績のみご紹介し、ご退職を記念したい。

杉山教授は、1972 年に同志社大学文学部英文学科をご卒業後、京都大学大学院文学研究科英語学英米文学専攻修士課程にご入学され、1974 年に同課程を修了後ただちに鹿児島大学法文学部助手としてご着任、講師、助教授にご昇任後、米国ジョージア州立大学における在外研究などを経て 1980 年に大阪市立大学文学部にお移りになられた。そののち、1990 年に関西学院大学経済学部助教授に着任された。1993 年には同学部教授に昇任され、さらに 2001 年には新設の言語コミュニケーション文化研究科教授にご就任後、博士前期課程及び後期課程の多数の大学院生の指導にあたられた。ご自身も、2007 年に同研究科より博士（言語コミュニケーション文化）の学位を授与されている。またこの間、二度にわたって同大学言語教育センター副長を務められ、2010 年には国際学部新設とともに同学部教授としてご就任、2014 年より 2 年間学部長をお務めになられて現在に至っている。

学会活動においては、日本アメリカ文学会に長く所属され、同学会関西支部の評議員、幹事、編集委員、副支部長を歴任されているほか、日本マーク・トウェイン協会においては編集委員長、副会長をお務めになられるなどご活躍なされた。

また学術研究分野においては、マーク・トウェインやフォークナーをはじめとするアメリカ文学を中心に、2 冊の単著を含む 5 冊のご著書と 30 篇以上の研究論文を執筆なされるなど、旺盛な研究活動を永年にわたって継続なさっておられる。

このように杉山教授は学内外にわたり、長年研究・教育において多大な貢献をなさってこられた。このたびのご退職にあたり、国際学部としての謝意を表すために本号をもって記念に代え、杉山直人教授のご健康と今後のご研究がいっそう発展することを念じつつ謝辞とさせていただくこととしたい。

末筆ながら、本通常号及び伊藤正一教授退職記念号を含め、国際学研究を刊行するにあたってご努力頂いた編集委員会の方々及び執筆者の方々に感謝したい。

2018 年 3 月